

令和5年度日向市地域福祉推進委員会報告書

令和5年8月21日に日向市役所にて表記の委員会を開催しましたので、その内容を下記のとおり報告します。

1. 開会

2. 委員長あいさつ 省略

3. 自己紹介 省略

4. 審議

審議事項

(1) 令和4年度における日向市地域福祉計画推進状況について

令和4年度の実施状況を抜粋して説明。(添付資料：資料3・資料4参照)

令和4年度における実施状況について承認された。

(2) 第3向日向市地域福祉計画の計画期間における総合評価について

本計画の計画期間は、平成30年度～令和4年度の5年間。令和4年度は最終年度であったため、総合評価について説明し、第3向日向市地域福祉計画の進捗状況について承認された。

【事務局が抜粋して説明した内容】

第3向日向市地域福祉計画には基本目標として、「地域福祉を推進する基盤づくり」、「助け合い、支え合い、いつまでも安全・安心のまちづくり」、「福祉サービスを生かして、広げて健康でいきいき暮らせるまちづくり」という3つの大きな基本目標があり、その下に6つの施策推進目標がある。

その施策推進目標に対して令和4年度に本市が行ったことを具体的に説明した。

施策推進目標の1つ目、「まず『我が事』の理解からはじめよう 市民主体のまちづくり」では、推進施策の「家庭・地域の『絆』から～親子のふれあい・地域のつながりを大切に～」について、「あらゆる機会を活用し、家庭の教育力を高める」4つの課の実施状況を説明した。また「地域での絆づくり」では、高齢者世帯等、支援が必要な家庭に対し、地域で支える仕組みづくりについて実施を説明した。

(資料4 P1)

また、同じ推進施策の「ボランティア活動への参加と推進～はじめよう、参加しよう あなたも私もボランティア～」については、ボランティア活動についての市民に対する周知・啓発、また「ボランティア・市民活動センター」の実施を説明した。(資料4 P3)

施策推進目標の2つ目、「生活しやすい快適な環境を整えよう」では、推進施策の「子どもを心豊かに育てる環境の整備～育てよう 未来を支えるひょうがっ子～」のなかで「子育てと仕事の両立支援」について、男性も女性も子育てに関わっていける社会づくりのため、こども課・生涯学習課・地域コミュニティ課の取組を説明した。(資料4 P6)

また、推進政策の「災害時に備えた支援体制の充実～いざという時に備えよう!～」の取組においては、避難行動要支援者対策の推進について、避難行動要支援者同意者名簿の取組等について説明した。(資料4 P7)

施策推進目標の3つ目、「進めよう理解と共生・協働で安全・安心のまちづくり」では、推進施策の「障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり」について説明した。特にコロナ禍の中、交流の場を設けることが難しい状況であったが、実施することができた各課の取組について説明した。(資料4 P9)

施策推進目標の4つ目、「助け合いと支え合いの組織と人材育成」については、「地域で助けあい支え合い、福祉力を高める組織づくり～助け合いのこころを育もう～」について、住民主体による助け合いの体制づくりのための取組を説明した。自治会(区)の地域福祉部設置への支援、また民生委員と地域包括支援センター等と連携し、高齢者支援を継続していることについて説明した。(資料4 P12)

施策推進目標の5つ目、「広げよう連携交流、構築しようネットワーク」では、「地域包括ケアシステムの構築から深化・推進へ～いつまでも住み慣れた地域で～」の取組として、認知症の人を社会・地域で支えるための仕組みづくりについて説明した。(資料4 P14)

施策推進目標の6つ目、「包括的な福祉サービスの提供・利用促進で『丸ごと』支援の推進」では、多種多様な複合的生活課題の相談に対応するために各相談支援機関の連携強化を図る取組について説明した。(資料4 P17)

また「障がいのある子どもへの支援の充実」について、個々の障がいの種類、程度や能力にあわせた就学支援、相談体制充実のための取組について説明した。(資料4 P18)

5. 質疑応答(抜粋)

委員： 民生委員の欠員状況について、令和4年度10地区が欠員しているということだが、この欠員を補充するために市が何か対応しているかどうか。また、自治会(区)における地域福祉部だが、どのように評価されているのか。区長公民館長連合会としては指導をうけながら部長を作っているという状況。最後に、避難行動要支援者対策について、モデル地区の作成数がどの程度増えているかどうか聞きたい。

市： 欠員地区の班長会・役員会に出向き、民生委員児童委員の活動について、地域の方に話しながら理解を求めているところである。また、地域福祉部についても地域福祉を推進する上で重要な基盤となる組織と考えているが、設置したところがコロナ禍で、どう活動したらいいかわからない区もあるため、今後はフォローアップが課題と考えている。続いて避難行動要支援者対策であるが、モデル地区3地区ある中で、昨年度末で23件の個別避難計画を作成したところ。今年度も推進していく予定である。

委員： 子どもの施策に関して、こども教室の開催が困難な状況にあると説明があったが、その理由を教えてください。

市： こども教室というのは、地域で子育てをやるということで地域の方々に支援をしていただいて運営してもらおうという仕組み。まちづくり協議会が活動しているところは、まちづくり協議会が運営している。その他のところは市が直営でやっているが、その地域で子育てを応援してくれる方々に、募集をかけている。しかし地域によっては支援してくれる方が高齢化などにより、要請することができない、頼むことができないところがある。

しかし、今回の地区については、こども課所管の放課後児童クラブで7月から制度的にその運営をしていくということになった。人員不足が原因で運営できなくなった今回のこども教室については、解消を図ったところ。

委員： 第3次日向市地域福祉計画の計画期間における総合評価について、コロナ禍の状況を分析し、人が集まりにくかった、訪問しにくかったことなど、影響を明確にした方がいいのではないかと。平成30年度は平均でも4.1あるのに、その後ずっと数値が下がっている。計画を推進していったにも関わらず、点数が上がらなかったことについて、やはり影響があったという点を記載するべきではないか。

市： 第3次日向市地域福祉計画の計画期間における総合評価については、委員が言われるように、計画を推進する上でコロナ禍の影響を受けているので、5年間の総合評価として記していきたい。

6. 講評

年次的に、しっかり評価をされているということは大変素晴らしいことと考えている。

関係各課、担当者がいろいろデータを収集してそれを総合的にまとめられているということは他の市町村ではなかなかできていないことなので、これはぜひ強みとして引き続き取り組んでいただけるとよろしいかと思う。

今回出された実施状況調査表（資料4）について、記載のない人数や実施率等についても、わかる範囲で示してもらおうと実際の状況がよりわかりやすくなる。加えて、第3次の計画書には目標値が書かれてあるものがある。これについては総括して、計画に上げた目標値に対して最終的にどうなったのかということを表示し実際どうだったのかということが評価できるのかなというふうに思うので、第3次計画の総合評

価というところの中で、1枚のペーパーで示してほしい。

2つ目として、1つずつの実施率の後に残された課題、新たな課題を、文字に起こしておいてほしい。それが多分、第4次計画の中との整合性というところで、おそらく重なっている部分が多いと思うが、もしかしたら新たな課題というものもそこに出てきているのかもしれない。そういう意味ではこの総合評価、4年度分の実施分ということも含めて、最終的な総合的な総合評価として残された課題というのを少し項目ごとに整理していくとよいと思う。

3つ目。先ほどコロナ禍の影響があったということが出ていた。しかし逆にコロナ禍によって進められたもの、進みやすくなったものはないのか。例えば会議などオンラインでできるようになったり、知恵を出して、進められる環境が逆に進んだというところもあると思う。そういうことを少し整理して次のいろいろなパンデミックや感染症等いろいろな事態に対しても、それに太刀打ちできる推進の方法というものがあるんじゃないかということも出していただくと次に繋がる。

総じて、総合評価をこれで出されると思うが、最終的に点数が低いのが「地域包括ケアシステムの構築から深化・推進へ」となると思う。これを、何をもってすれば高くなるのかというところを改めて整理をして、おそらくそこはそれぞれの縦計画に繋がっていくかと思うが、そことの繋ぎ合わせというところを整理をされるのも一つの方法と考えている。

それを踏まえて最終的な総合評価の中で、市として今この地域福祉を推進するにあたって、何をポイントとして大きく掲げる必要があるのかということ、何か打ち出してもらえるとよい。例えば、先ほど地域でも担い手不足、専門職も担い手不足、行政にしても、いろいろな形での担い手不足という話があったが、共通してこの地域福祉の推進にとっては非常に重要な課題になるかと思う。そこをいかにして地域の人たちの力を借りながら一緒にやっていくのか、報告の中にお示しをしていただくと伝わると考えている。

最後に、議論をしていく時間とか場所をしっかりと作っていくことが次に繋がると考えている。計画通りに進めるのも大事だが、やっぱり新たな時代にどうしていけばいいのかということ、膝を突き合わせて議論するという機会を行政・社協・市民の方々と一緒に作るとよろしいのではないかと。

7. 閉会